

平成 22 年度 札幌市医療安全推進協議会(基幹会議) 議事録(発言要旨)

項目	発言者	発言趣旨
<p>報告事項(1) 平成 21 年度札幌市医療安全推進協議会専門会議の実施報告について</p>	<p>事務局 (鈴木職員)</p>	<p>ア：専門会議(情報提供)についての実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌市医療安全支援センター事業概要の発行について、相談事例の検討を行い、具体的な内容も盛り込んではどうかなどといった意見があった。 ・ 札幌市医療安全相談窓口リーフレットの発行について、市民啓発の内容や表現等について意見があった。 ・ 医療安全講習会についての助言があった。 <p>イ：専門会議(院内感染防止)についての実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノロウイルス等の感染性胃腸炎院内発生報告の状況について、職種別の発症率や入院患者の発生状況等を追加するなど、全体像がわかるようなデータ分析を行ってほしいとの意見があった。 ・ 無床診療所の院内感染対策については、行政が積極的にアシストすべきとの意見があった。それを受け、医療安全管理指針等の作成例を市内の全無床診療所へ送付し情報提供を行った。 ・ 新型インフルエンザ対策について、保健所の役割として冷静な分析や正しい応答が求められるという意見があった。 <p>ウ：専門会議(医療事故防止)についての実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内病院の患者相談窓口のホームページでの情報提供について、検証や工夫が必要との意見があった。 ・ 医療事故等の相談事例について、当事者間の話し合いを進めること、歯科医師会や薬剤師会と連携についての意見があった。
<p>報告事項(2) 平成 21 年度医療安全対策について</p>	<p>事務局 (鈴木職員)</p>	<p>ア：平成 21 年度市民相談結果の概要(資料 2)について説明。</p> <p>イ：平成 21 年度医療安全講習会の実施報告(資料 3)について説明。</p>
	<p>中田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 2 の相談内容で、治療費に関する相談が 20 件増えているが、その内容について教えてほしい。
	<p>事務局 (永井主査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増えた理由について、はっきり確認はしていないが、治療費が思っていたより高いといった相談が多い。
	<p>中田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ それは、前もってインフォームドコンセントがなかったということでしょうか。
	<p>事務局 (永井主査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の説明なく、高額な治療費を請求されたという相談が見られる。
	<p>松家会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ それには、医科と歯科で差があるか。
	<p>事務局 (永井主査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医務全体としては、治療費に関する相談が第 4 位の 7% を占める。そのうちの歯科診療所に関する市民相談の統計では、治療費に関することが 20% で第 2 位を占める。

松家会長	・ 歯科のほうはやや多いということか。
事務局 (永井主査)	・ 歯科に関する市民相談では、第1位は診療内容に関する事で18件で30%、第2位が治療費に関する事で12件で20%を占めている。
松家会長	・ 全体で7%、歯科の場合は20%ということですね。
本郷委員	・ 相談内容のその他の部分が非常に増えているが、特徴的な増加が見られたものはあるか。
事務局 (永井主査)	・ 増えた理由は分からないが、その他の内容としては、施術所や介護福祉施設に関する相談等がある。
松家会長	・ 100件近く増えているが、主に増えたものはどういうものか。
事務局 (田森課長)	・ 詳細な検討はできていない。
南須原委員	・ その後のフォローアップというのはしているのか。例えば、相談窓口に来て、それが病院へ伝えられたとすると、その後、解決したかももう1回患者さんから問合せがあるとか、もしくは患者さんへフィードバックということはしているのか。
事務局 (永井主査)	・ 相談事例により対応が異なっていて、フィードバックして確認する場合もあるし、あとは当事者間のお話し合いにお任せするといったケースもある。
浅水委員	・ 医療事故に関する相談件数もかなりふえているようだが、何か傾向はあるか。
事務局 (田森課長)	・ 医療事故というのは相談者の主訴であり、実際は説明不足とか、従事者の対応等、いろいろなものが複合して、御本人いわく医療事故というものが増えていのではないかと考えている。司法で争われるような医療過誤等はほとんどないと考えている。
五十嵐委員	・ 相談窓口につながった際に、薬剤師会等に、こういう事例があったというような連絡はないですね。
事務局 (永井主査)	・ 今のところ個別に、それぞれの会の方には連絡していない。
五十嵐委員	・ 薬剤師会にも同様な事例が寄せられて、その対応に私どもも苦慮している。相談窓口と薬剤師会と両方に連絡があるのかなと思った。 ・ 希望としては、できればそういうのを共有できれば非常にありがたいと思う。今後、もし重篤なものがあれば連絡でもいただければと思う。
松家会長	・ 保健所に行くと相談記録を閲覧できるのか。
事務局 (田森課長)	・ 情報公開の制度があるので、個人情報を除いた処理票というものを閲覧いただくことは可能である。

松家会長	<ul style="list-style-type: none"> • できれば個々の機関とか個人情報伏せたようなものをまとめて、冊子のようにして、各団体に配らなくてもいいけれども閲覧できるようにしていただくと、参考になると思う。各団体の苦情窓口にも色々な相談がくるが、保健所の方が情報量が多いのではないかと思うので、今すぐでなくても結構だが、検討していただければと思う。
川畑委員	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年も同じようなことが言われていて、苦情者に対しても、もし匿名性がなければフィードバックした方がいいのではないかと思う。 • また、看護協会との連携をどのようにしていくかということの意見も委員から出ていたと思う。そのシステムづくりというのが課題ではないかという提案があったと思うが、その辺はいかがか。
事務局 (田森課長)	<ul style="list-style-type: none"> • 内容によるかと思うが、昨年度の取組みの一つとしては、歯科医師会の方には、事例もそれほど多くなかったということもあるが、いわゆる医療事故と言われているものの概要を収集したものを提供して、事例の共有をした。 • 五十嵐委員からも意見があったが、例えば調剤過誤で年間分をまとめて、個人情報を外してリスト化したものを作って、薬剤師会と保健所で共有するというようなことは、医師会や看護協会等、どの団体さんともシステムづくりとしては今後やっていけないのではないかと考えている。
山口委員	<ul style="list-style-type: none"> • 診療拒否に関することが約2倍位になっているが、最近色々な診療拒否、患者によっては医療機関側もしたいような方がいるということも事実なので、詳細を教えてほしい。
事務局 (永井主査)	<ul style="list-style-type: none"> • ケース・バイ・ケースだが、こちらで事実確認をしたところ、正当な理由があって診察をお断りしているというケースも多々見られる。本当に、全く理由なしに診療拒否されているというケースは少ないとお考えいただきたい。
松家会長	<ul style="list-style-type: none"> • 少ないということは、あるということか。今、すごく情報過多になっているので、皆、医師の応召義務に対して非常に神経質になっている。 • 目の前で、医院の前で倒れている人間を医師として診ないといったケースは応召義務違反になるが、札幌市のように大きいところだと、診療を閉じてしまった後には、夜間診療所というのがあるというふうに説明することで十分だというような判断が出ているので、そこまで説明していただくと非常にありがたいと思う。

<p>議事(1) 平成 22 年度札幌市医療安全推進協議会の運営方針について</p>	<p>事務局 (永井主査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年度札幌市医療安全推進協議会の運営方針について(資料 4) 平成 22 年度札幌市医療安全相談窓口の運営方針について(資料 5) 平成 22 年度医療安全講習会の開催予定について(資料 6)について説明
<p>議事(2) 平成 22 年度医療安全対策について</p>	<p>南須原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療事故防止に関する専門会議で、相談事例の分析というのは、ここで少し決めるものなのか。内容、数、うちの病院等も毎年色々な数を出しているが、数が大きく変わってくればトレンドがわかって役には立つが、一方で内容がわからないと全然意味がないということもある。だから、両方やらないと、すなわち数のトレンドだけ出すのではなくて、その中で啓蒙できるようなものをピックアップしていくことは非常に大事だと思う。 もし分析をするなら、患者側にとっても病院側にとってもインパクトのあるようなものは、少し分析プラス事例報告。さらにオープンにできるような、そういう分析をしていかないと、ただ形だけやっていることになりはしないかと少し危惧している。
	<p>事務局 (田森課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際、昨年もお願ひした内容のとおり、実際の事例を提示して、それに対しての我々の対応の仕方について、御意見をいただきたい。 その中から、例えばこういう仕組みでやっていったらいいのではないかというような意見をいただく場にしたいと思っている。
	<p>南須原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> そうすると、患者相談窓口をホームページで公表ということは、その仕組みを公表するのであって、内容を公表するということではないということですね。
	<p>事務局 (田森課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> それについては、実際に今、調査を行っているが、各病院で相談窓口の情報を出していいと承諾いただいた医療機関の情報を我々のホームページに掲載するといった内容である。
	<p>松家会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 患者相談窓口、自分の病院の方だけとか、オープンにしていないところもあるので、アンケートをとって、それを一般市民に知ってもらって、そこにアクセスしてもらおうということですね。これは、情報を周知するということです。
	<p>松家会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年 3 月の医療安全セミナー春季というのは、どのような内容なのか。相談職員の技術水準の確保というのは一番大切だと思うので。
	<p>事務局 (田森課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相談業務の実際ということで、実際のシミュレーションを含めた研修があって、そこに職員を派遣した。

	松家会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1名位で足りるのだろうか。もっと多く出した方がよいと思うが、予算の関係なのか。
	事務局 (田森課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ それも多少ある。その他にも、資料に記載の医療安全支援センターの初任者研修、実践研修も、一部演習をまじえた研修で、それに参加している。
	南須原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談職員は何人位いるのか。というのは、平均すると、1日4件程度になるので、たいした仕事ではないという印象もなきにしもあらずだが。
	事務局 (永井主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全相談窓口の専用回線を2回線持っており、保健所の医療政策課の職員が全員とれるような仕組みになっている。医療政策課の係長以下の職員の人数は22名程度である。 ・ 主に医務系の職員10名程度でとって、薬事の関係は薬事系の者がとっている。
	南須原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、うちの病院のように、相談担当の何人かがチームを組んでいるというよりは、もうちょっと広い範囲で、手のあいている人が電話をとっているということですね。 ・ そうすると、1年に1人ずつ行っても、10人行くには10年かかるということになる。
	事務局 (永井主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういったことも含めて、年度末に、研修に行った者が資料を持ち寄って報告会を実施している。それにより、研修の内容を他の職員たちにもフィードバックし、相談技術の標準化に努めている。
	事務局 (田森課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追加すると、新しく着任する職員が例年3,4名いるので、基本的に新しい職員を研修に派遣している。
議事(3) 平成22年度事業 計画案について	事務局 (永井主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成21年度事業計画案(資料7)について説明。
	松家会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に協議事項がなければ、これで議事を終了する。

